

第1章 はじめに

1 本計画策定の背景

JR野幌駅を中心として「江別の顔づくり事業」によるまちづくりが進められてきており、この事業では鉄道が高架化され、新しい駅舎や駅前広場ができるとともに、駅周辺の道路が切り替え・拡幅されるほか、グリーンモール(1)が新設されるなど、駅周辺が安全で快適なまちに変わろうとしています。

野幌商店街振興組合と野幌料飲店組合、野幌商交会の商工3団体は、このまちづくりに合わせて野幌駅周辺地区を活性化させる良い機会と考え、地域の関係者の方々に呼びかけ、江別市の協力のもと、「野幌駅周辺地区活性化計画」を策定することとしました。

1: グリーンモール

歩いて楽しいまちづくりを目指し、江別市ではJR野幌駅を中心に東西南北に伸びる緑豊かな自転車・歩行者道路の整備として、北口広場から北に伸びる「天徳寺グリーンモール」、同じく東西に伸びる「東西グリーンモール」を計画しています。

2 本計画の役割

本計画は、野幌駅周辺地区の魅力向上を促し、活力のあるまちづくりに向けた、住民、事業者、行政などの共通の指針(道しるべ)となるものです。

本計画では、将来の「野幌駅周辺地区」をどのようなまちにしていくのか、そしてそれを実現するための取り組みを明らかにしていきます。

3 本計画の策定方法

計画の策定で一番大切にすることは、「地域の住民・関係者の声を盛り込むこと」、「実現できる取り組みを盛り込むこと」です。

そのために、商工3団体が事務局になり「野幌駅周辺地区活性化協議会(2)」、「8丁目会議(3)」の2つの会議を立ち上げ、計画を策定しています。

また、必要に応じて、本計画の見直しを行うなどして本計画を円滑に推進していきます。

2: 野幌駅周辺地区活性化協議会

野幌駅周辺地区の魅力向上を目指す活性化計画の策定と推進を目的として、地元事業者、事業者、住民、土地・建物所有者が主体となって平成18年11月に設立しました。

3: 8丁目会議

主に8丁目通沿道にあたる商店街の魅力向上に向けた取り組みを検討するため、野幌商店街の土地・建物所有者が集まり、平成18年10月に設立されました。

野幌駅周辺地区活性化協議会と8丁目会議は、相互に情報を交換しながら、ともに地域の魅力向上に向けた議論・検討を続けています。

4 本計画の対象区域

計画対象区域は8丁目通、天徳寺通、遊楽街、JR野幌駅北口南口周辺を含む面積約8haの「JR野幌駅周辺地区(まちなか)」区域です。

計画対象区域図



5 本計画を進めていく主体

本計画を進めるのは、計画対象区域に係わりを持つ主体(商業者、事業者、土地・建物所有者、自治会・住民、行政など)です。

計画の中では、取り組みを具体的に進めていく主体がわかるようにしてあります。

6 野幌駅周辺地区の今

(1) レンガの歴史を持つまち。レンガをアクセントに使った建物が多く見られます。

野幌は、良質な陶土と燃料となる豊富な木材により、レンガの製造など窯業産業で拓かれた歴史を持つまちです。

地区内には、レンガをアクセントに使った住宅やお店などが多く見られます。



(2) 店舗が集積し、緑が豊かに残るまちです。

地区内には病院や歯科などの医療施設、中高層のマンション、銀行や緑豊かなお寺などのほかに、100を超える店舗で構成されている野幌商店街が8丁目通を中心に広がっています。

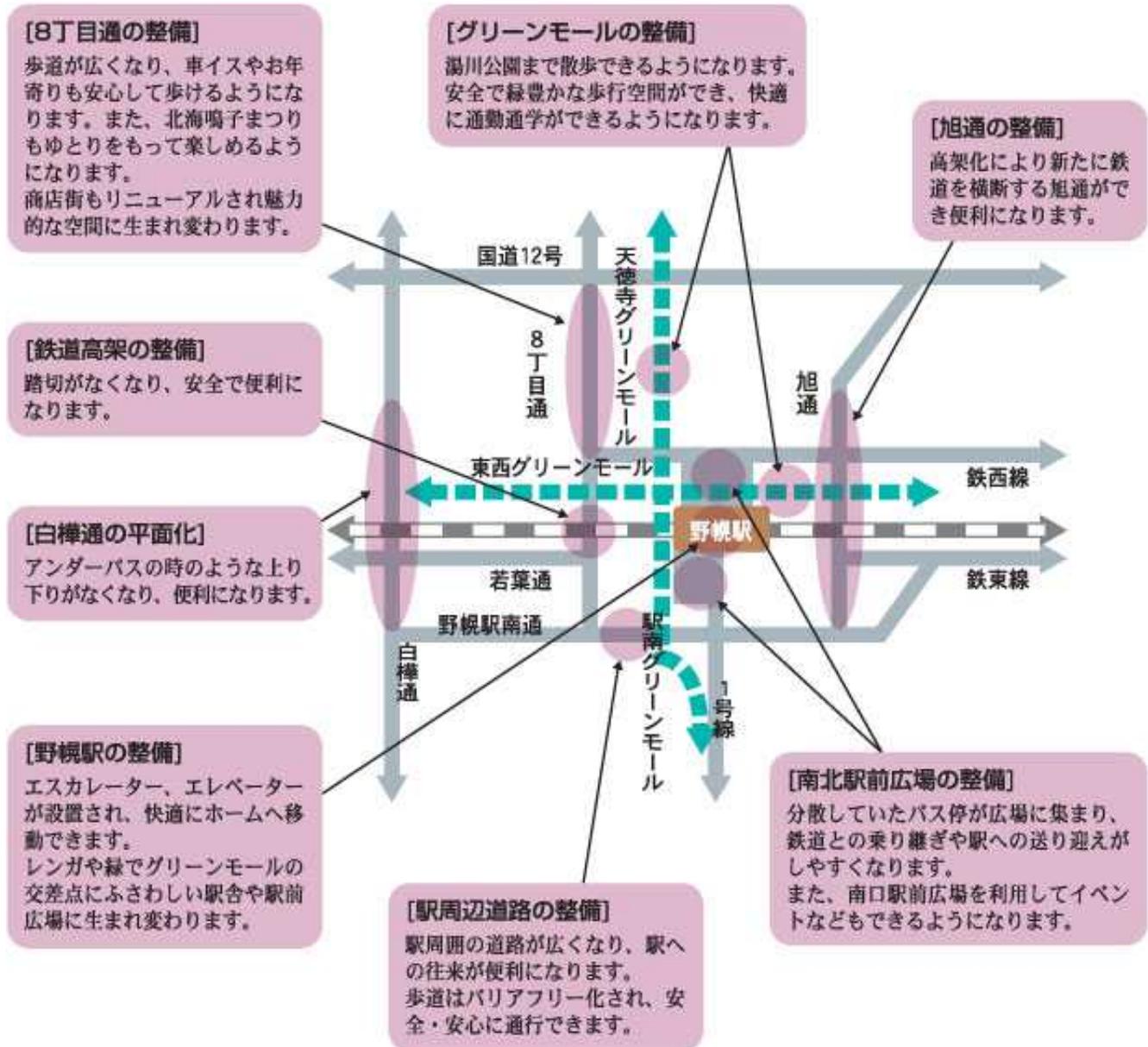
また、この8丁目通では、えべつ北海鳴子まつりなどの各種イベントが毎年開催されており、市民の集いの場ともなっています。



(3) 新しい江別の都心づくりに向けた駅周辺整備が進んでいるまちです。

JR 野幌駅周辺地区は地理的に市街地のほぼ中心に位置しており、現在、野幌駅を中心として鉄道高架化のほか、駅前広場や街路整備など、新しい江別の都心づくりに向けたまちづくりが進められています。

■ 野幌駅周辺の将来イメージ図 ■



コラム 江別とレンガについて

江別でのレンガ生産は、明治24年に始まったと言われています。

開拓使は内陸開発建築資材にレンガを奨励したことから、北海道庁赤れんが庁舎をはじめとする多くの公共建築がレンガでつくられ、大正以降、全道一の陶土地帯である江別の野幌周辺へとレンガ製造の中心が移りました。

現在、江別市は全国有数のレンガ生産地であり、江別市内には、学校、サイロ、民家、倉庫など数多くのレンガ建造物が残っています。

また、このレンガをまちづくりに活かそうと、市民団体の活動も近年活発になり、「旧ヒダ工場」の保存や、お菓子などの特産品にレンガがかたどられるなど、住民、事業者、行政が連携し、多くの取り組みが行われています。

このような取り組みが評価され、「江別のレンガ」は平成16年に「北海道遺産」として認定されているほか、「江別市の煉瓦建造物」が平成20年度に「近代化産業遺産」として認定されています。

土のぬくもりが残るレンガは、時代を超えて新しい役割を担おうとしています。“江別に住んでいる”と実感できる「レンガのある風景」をいつまでも守り続けていきましょう。



野幌煉瓦工場の両登り窯



レンガをあしらったパンやお菓子



野幌地区にある旧ヒダ工場は、その一部を、江別市と姉妹都市グresham市との交流拠点として活用。喫茶店として市民に親しまれています。

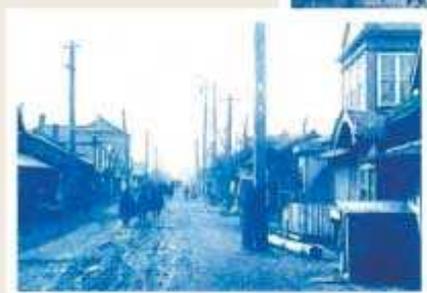
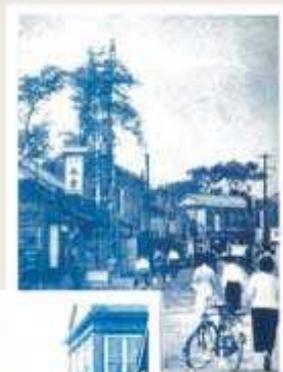


公衆電話ボックスもレンガがつかわれています

コラム 写真で見えてみよう。野幌駅周辺の「いま・むかし」

野幌駅周辺は、かつてから江別の顔となる場所でした。古い写真にも、当時のにぎやかな雰囲気を感じることができます。

「いま・むかし」を比べると、今の時代に引き継がれているものがあることに気がつきます。これからのまちづくりに大切に残し、育てていきましょう。



昭和初期の8丁目通*



現在の8丁目通



昭和初期の野幌駅*



現在の野幌駅



昭和初期の天徳寺*



現在の天徳寺

*写真提供：高間和義氏